京都大学
KYOTO UNIVERSITY

京都大学の改革と将来構想

WINDOW

「京都大学の改革と将来構想」京都大学 企画・情報部企画課　〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL：075-753-2084

2015.06

京都大学
KYOTO UNIVERSITY

WINDOW
KYOTO UNIVERSITY

京都大学総長 山極　壽一

京都大学は創立以来、自由の学風のもと対話を根幹とした自主独立と創造の精神を涵養し、多元的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してきました。学問を志す人々を広く国内外から受け入れ、国際社会で活躍できる能力を養うとともに、多様な研究の発展と、その成果を世界共通の資産として社会に還元する責務は、ますます重要になりつつあります。

一方、地球環境の悪化や民族間、宗教間の対立の激化、国際資源競争や金融危機、社会格差や生活の不安などの 20 世紀的課題は、解決されないまま 21 世紀に持ち越され、一層問題が大きくなっており、世界の情勢とわが国を取り巻く状況は急速に変化しています。わが国の人口動態の変化と基礎的財政収支の不均衡にともない、国立大学は、新たな運営形態や組織改革を求められるようになりました。特に、国からの運営費交付金は大学改革促進係数等によって毎年減少し、本学を取り巻く財政状況は一層厳しくなりつつあります。

そこで、第 3 期中期目標・中期計画を見据えた改革の加速期間とされる現在、大学が直面している状況を正しく認識した上で、その改革に向けて指針を提示し、今後の実行計画を立てることにいたしました。本構想では、新たな方針・施策だけでなく、継続して取り組むものについても、その理念や内容を十分に踏まえながら、さらに発展させようと考えております。まだこれらの指針や計画は案の段階であり、各方面からのご指摘やご批判をいただいて改定していく所存です。皆様の積極的なご意見を頂戴したいと思っております。

KYOTO UNIVERSITY WINDOW 構想

世界や社会に通じた窓を 開け風通しをよくし、野生的で賢い学生を育てることが私たち京都大学の共通の 夢であり、目標です。

まず私は、こうした現況に鑑み、京都大学が歩む指針として以下に述べる「WINDOW 構想」を打ち出しました。大学を社会や世界に開く窓として位置づけ、有能な学生や若い研究者の能力を高め、それぞれの活躍の場へと送り出す役割を大学全体の共通のミッションとして位置づけたいと思ったからです。大学の教育とは、知識の蓄積と理解の向上だけを目指すものではなく、習得した知識や技術を用いていかに新しい発想や発見を生み出せるようになるかが問われるものです。その創造の精神を教職員と学生が一体となって高めるところにこそ、イノベーションが生まれるのです。すべての学生がみな同じ目標に向かって能力を高めたとしてもイノベーションには結び付かないでしょう。違う能力が出会い、そこで切磋琢磨する場所が与えられることによって、新しい考えが生み出されていくのです。京都大学では、単に競争的な環境を作るのではなく、分野を超えて異なる能力や発想に出会い、対話を楽しみ協力関係を形作る場を提供していきたいと考えています。そういった出会いや話し合いの場を通じて野生的で賢い学生を育て、背中をそっと押して彼らが活躍できる世界に、開いた窓から送り出すことが、私たち京都大学の教職員の共通の、夢であり目標であってほしいと思います。

その「窓」にちなんで、WINDOW という標語を作りました。

W WILD AND WISE

未知の世界に挑戦できる実践の場として、野生的で賢い学生を育成します。

I INTERNATIONAL AND INNOVATIVE

研究の国際化を一層推進し、イノベーションの創出を図ります。

N NATURAL AND NOBLE

自然に親しみ、学び、高い品格と高潔な態度を身に付けられる、学びの場を作ります。

WINDOW構想に掲げる6つの目標

D DIVERSE AND DYNAMIC

多様な文化や考え方を受け入れ、悠久の歴史の中に自分を正しく位置づける落ち着いた学問の場を提供します。

O ORIGINAL AND OPTIMISTIC

失敗や批判を恐れず、それを糧にして異なる考えを取り入れて目標達成に導くような能力を涵養します。

W WOMEN AND WISH

男女共同参画推進アクション・プランに基づき明るい希望をもてる環境を整備します。

WILD AND WISE

未知の世界に挑戦できる実践の場として、
学生への多様な教育研究環境を提供し、
野生的で賢い学生を育成します。

W はWild and Wise。すなわち野生的で賢い学生を育てようという目標です。現代の学生は内にこもりがちで、IT機器を常時持ち歩き、狭い仲間うちだけで絶えずつながりあう傾向にあると言われています。そのため、ひとりよがりの判断でよしとしてしまう風潮が広がりつつあります。理にかなう優れた選択や行動を実施するためには、情報を正しく読み、自分ばかりでなく他者の知識や経験を総動員して自己決定する意思を強く持つことが必要です。大学キャンパスの中はもちろんのこと、それ以外にもこうした対話と実践の場を多く設け、タフで賢い学生を育てようと考えています。

博士課程教育リーディングプログラムの拠点の
一つとして整備した「京都大学東一条館」

国際高等教育院附属国際学術言語教育センター
（i-ARRC）（完成予想図）

グループワークやディスカッション等が可能なスペース
「ラーニング・コモンズ」（附属図書館）

重点戦略１－１

学生主体で自発的な創意・創造性を活かせるような教育プログラムを充実させ、
学生本位の視点に立った教育の質的転換を行うため、講義・コース内容の可視化による
教育の質保証を担保するとともに、学部と大学院との柔軟な接続を図ります。

学部と大学院との柔軟な接続等

1. 深い教養と高度な専門能力を持つ人材を育成するために、学部・大学院の接続（学部から修士までの一貫した教育課程の導入、学部科目再履修制など）、大学院修士課程・博士後期課程の接続（5年一貫制博士課程など）、グローバル化に対応したアカデミック・パスの検討および飛び入学・早期卒業（修了）の定着を進めます。

教育の質的転換等

2. 学生の自律的な学修の促進、学生に対する学修指導等の充実および教育の国際化を図るため、科目コースツリー、科目ナンバリング*、GPA制度*の導入、ジョイント・ディグリー*／ダブル・ディグリー*制度の策定、国際化に対応した学事暦の実効化などを遂行するとともに、OCW*（Open Course Ware）やMOOCs*（Massive Open Online Courses）もさらに充実させます。

社会との接続を意識した教育内容の充実

3. 社会が求める人材を育成するため、各学部・研究科が開講する既存科目を適宜組み合わせてコース化し、「グローバルコース」、「高度教養教育コース」、「副専攻コース」、「京都学コース」などを設置します。「高度教養教育コース」では、高度情報リテラシー*科目、中長期国内インターンシップ科目を開講します。

社会人の学び直しへの貢献

4. 社会において求められる人材の高度化・多様化を踏まえ、社会人のための編入学制度や長期履修制度を推進し、多様な大学院生の入学を促進します。また、履修証明プログラムを推進し、社会人の学び直しに貢献します。

重点戦略１－２

次世代を担うグローバル人材の育成と育成基盤の
強化により、人々を導くことのできる、したたかで
強靭なリーダーを育成します。

異文化を理解し国際的に活躍できるグローバル人材の育成

1. 京都大学ジャパンゲートウェイ構想*に基づく取り組みや博士課程教育リーディングプログラム等の活用により、高い教養・俯瞰力・独創力を持ち、自国・他国文化の理解に基づき、国際的に活躍できるグローバル人材を育成します。国際高等教育院附属国際学術言語教育センター（i-ARRC）において、グローバル社会に対応した革新的な言語教育を実施するとともに、異分野交流の場を創出し、自国理解力および異文化理解力を養います。

グローバルに通用する起業家の育成

2. グローバルに通用する創造性・アントレプレナーシップ*に富む野心的な人材を育成するため、基礎・基盤教育を実社会とつなぐことを意図した実践的なイノベーション教育プログラムを構築するとともに、イノベーションに資する産官学連携事業を基盤として、ベンチャーマインドを持った学生、教員等に対して実践的な起業教育（指導）を実施します。

重点戦略１－３

対話を根幹とした自学自習を促進するために、
学生主体の多様な学びを支える教育学習環境を
整備するとともに、人間形成の一翼を担う
課外活動を支援します。

教育環境の充実

1. 学生個人が自らの学びを自身で振り返りながら主体的な学びを促進するため、BYOD (Bring Your Own Device)の実現やeポートフォリオシステム*の構築など、ICTの活用をはじめ学生主体の多様な学びを支える教育学習支援環境の整備を進めます。

課外活動環境の充実

2. 学生が自主的、自立的に行う課外活動を支援するため、施設を整備するなど、課外活動環境の充実を図ります。

INTERNATIONAL AND INNOVATIVE

対話を重視した教育研究環境を基盤とする研究の国際化を一層推進し、イノベーションの創出を図ります。

Alexander Ljungdahl c The Nobel Foundation 2012

| はInternational and Innovative。国際性豊かな環境の中で、常に世界の動きに目を配り、世界の人々と自由に対話しながら、時代を画するイノベーションを生み出そうとするものです。海外の大学や研究機関、産業界等を通じた多様な交流を通じて、これらの動きを作り出そうと考えています。

ラスカー財団提供

ラスカー基礎医学賞を受賞

京都―ボルドー シンポジウム2015

国際科学イノベーション棟

重点戦略2－1

国際性豊かな環境を醸成します。

研究者・学生交流の推進

1. 国際競争力のある海外大学等との国際共同研究を推進します。また、研究者・学生交流を推進するために、学術交流協定および学生交流協定締結を進め、全学海外拠点を整備します。

2. 京都大学ジャパンゲートウェイ構想*や博士課程教育リーディングプログラムなどを通じ、学生の実践的能力やイノベーション能力の向上を図ります。

重点戦略2－2

国際的な研究環境・研究支援体制を整備することにより、国内外の卓越した研究者が集う国際研究拠点を設置します。

研究支援体制の充実

1. 英語が堪能で事務を能くする「国際的な事務職員」を養成します。URA*(University Research Administrator)による支援体制の充実やICT環境の整備などを進め、多様性に富む人材が研究教育に専念し、能力が発揮しやすい環境整備を図ります。

次代を担う研究者の育成・輩出

2. 研究と教育の連動を通じて次世代を担うグローバル人材の育成基盤を強化していくため、テニュアトラック*等を含む採用システムを整備し、優秀な若手研究者の育成を図ります。

先導的拠点(WPI*拠点)の整備

3. 本学の強みを活かした最先端研究の展開、次世代を担う研究人材の育成、国内外の卓越した研究者の頭脳循環につなげるため、最先端研究を核とした世界トップレベルの国際研究拠点として、「国際高等科学院」(仮称)を設置します。

重点戦略2－3

京都大学の特徴ある研究分野を分かりやすく提示するランドマークの策定と世界への発信を図ります。

研究分野のランドマーク策定

1. 自然科学諸分野から人文・社会科学を含む多岐にわたる取り組みにおいて、基礎研究・応用研究・開発研究を包摂する知の営みにより学術研究の創出と発展に寄与していくため、京都大学の特徴ある研究分野を分かりやすく提示する「Kyoto University Science Landmark Initiative」を策定し、世界へ発信します。

情報発信の強化

2. “京都大学らしさ”を研究活動面でより鮮明にアピールするため、大学発のアカデミックマガジン(和・英版)を発行し、世界の学問の拠点にふさわしい情報発信を目指します。

重点戦略2－4

産官学連携および社会貢献等事業の推進ならびに質の高い医療の提供等を通じて、社会的課題の克服と人々の健康の向上を図ります。

ベンチャー育成事業の推進

1. 本学の世界最高水準の独創的な研究開発を支援し、その成果を国内外の資源を活用しながら新産業の創出までつなげていくため、「基礎研究」の推進徹底により「普遍的な技術開発」を展開し、国際科学イノベーション棟を活用した産官学連携を推進します。特に、イノベーションの源泉となる大学発ベンチャー育成事業を重点的に推進します。

技術移転の推進

2. 本学の多様な研究成果を社会に還元するため、産業分野の将来像を踏まえた知財ポートフォリオマネジメントを構築し、戦略的かつ基礎科学に根差した技術移転の推進を図ります。これらの事業において、起業家を育成するための実践的能力やイノベーション能力の向上を目指した研修を行います。

社会貢献等事業の推進

3. 本学のプレゼンスを向上させ、新たな支援者の獲得や持続性のある本学への支援風土を醸成させるとともに、現代社会の様々な問題解決に資するため、最先端の教育・研究成果等を市民講座や施設公開により広く発信し、社会に向けて開かれた討論を実施していきます。

   また、社会的課題がグローバル課題に直結していることに鑑み、人類的課題克服に向けた解決策の提示をはじめとする活動にも博士課程教育リーディングプログラムの履修生等を参加させ、実践的な貢献を図ります。

先進的医療の開発と質の高い医療の提供

4. 医学部附属病院を中心として、再生医療など新しい医療技術と革新的な医療機器の開発および最新情報技術による医療情報の集約化を推進し、より安全で質の高い医療システムの確立を図ります。

   また、地域中核病院や自治体との連携の強化および海外特にアジア地域の病院との医療人材交流の一層の拡大を通じて、地域のみならずアジア諸国における国際標準の医療の提供を図ります。

NATURAL AND NOBLE

自然に親しみ、広く深く学び、高い品格と高潔な態度を
身に付けられるよう、全学の意識を高め、魅力ある
カリキュラムや快適な学びの環境および制度を作ります。

N はNatural and Noble。京都大学は、三方山に囲まれた千年の都に位置し、自然の景観に恵まれ、高い水準の文化と歴史に包まれた環境にあります。昔から京都大学の研究者は、これらの豊かな環境の下で自然と触れ合い、多くの新しい発想を育んできました。これまでに9人のノーベル賞、2人のフィールズ賞をはじめとする多くの世界的な賞の受賞者を輩出し、西田哲学、霊長類学など世界に類のない新しい発想や学問を生み出してきたのも、京都のこうした環境によるところが大きいと言えましょう。また、京都の市民も京都大学の学生に古くから親しみ、時には教育的な配慮をもって接してきました。京都大学の学生の高い品格や倫理観は京都の自然と社会的環境によって醸成されてきたように思います。今後もこの伝統を受け継ぎながら、新しい時代に適合しつつそれを先導するような精神を培っていきたいと考えています。

芦生研究林「教育・研究利用現地ツアー」

全学共通科目「京野菜の栽培を習う」での実習

京都大学サステナブルガイド

省エネを目指したグリーンカーテン

重点戦略3－1

教育研究環境の整備・充実を図ります。

快適なキャンパス環境の提供等

1. 学生が快適なキャンパスライフを送ることができる環境を整備します。併せて、サステイナブルキャンパス*の構築を目指して、京都大学キャンパスマスタープラン*(2013)を逐次更新し、環境賦課金制度を活用した環境負荷低減の継続・促進などを図るとともに、地球社会の調和ある共存に寄与する学生・教職員の意識の向上に努めます。

重点戦略3－2

自然に学び、異文化と交流できる機会を増やします。

フィールドワークやカリキュラムの充実

1. 創立以来培ってきた精神(自学自習、自重自敬、自得自発など)を踏まえ、現場体験も重視しながら、学生が自然に学び、京都の文化的・歴史的遺産や異文化と触れ合えるカリキュラムを増やし、行政、企業、民間団体と協力して交流事業の充実を図ります。

ゲストスピーカーによる講義「京都の強みを生かした挑戦」

重点戦略3－3

コンプライアンスの強化を図ります。

コンプライアンスの強化

1. 学生と教職員の高い倫理性の堅持と社会的信頼の維持・向上を図るため、総括的なコンプライアンス体制の下、コンプライアンス教育・啓発を一層充実させるとともに、リスク・マネジメントの発想に基づく、予防的措置に重点を置く環境整備および制度構築を図ります。

「ブックワールド」の模型を製作する
6年生の子どもたち

子どもたちと本学の研究室がデザインした
京都市立洛央小学校「ブックワールド」

DIVERSE AND DYNAMIC

多様な文化や考え方を常に受け入れ、自由に学べる精神的風土を培いながら、悠久の歴史の中に自分を正しく位置づけて堂々と振る舞う心構えを涵養するとともに、その躍動を保証しつつ静かで落ち着いた学問の場を提供します。

D はDiverse and Dynamic。グローバル化時代の到来により、現代は多様な文化が入り混じって共存することが必要になりました。これまで強みを発揮してきた日本の均質性は、国際競争が激化する現代では時として創造力を弱め、イノベーションの育成を阻んでいると言われます。京都大学は多様な文化や考え方に対して常にオープンで、自由に学べる場でなければならないと思います。一方、急速な時代の流れに左右されることなく、自分の存在をきちんと見つめ、悠久の歴史の中に自分を正しく位置づけて堂々と振る舞うことも重要です。京都大学はその躍動を保証する静謐な学問の場を提供したいと思っています。

市民を対象とした「飛騨天文台 自然再発見ツアー」

あしなが育英会「京都学インターンシップ・プログラム」

重点戦略4－1

「京大らしさ」の継承と発展を図るために、京都を丸ごと大学のキャンパスとみなして地域・社会と共生していく「京都・大学キャンパス計画」を推進するとともに、同計画に基づき、行政・経済界・他大学等との連携強化による国際化を推進します。

単位互換制度の実施

1. すでに構想・実施されている「京都ビジョン2040」（京都の未来を考える懇話会）や「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」（京都市）と歩調を合わせつつ、「京都学」関連講義の大学間単位互換制度を推進します。

京都府・京都市等との連携

2. 京都府や京都市等、また京都府下やその周辺の国公私立の施設（植物園や動物園、博物館や美術館など）との連携を図り、京都のアカデミズム*を創造し、世界へ発信します。

休止施設の再利用

3. 上記連携から、観光都市京都の文化的・歴史的遺産を十分に活用するとともに、休止中の施設の再利用を通じて、外国人研究者や留学生の利用できる施設を拡充します。

研究者交流の推進

4. 年俸制、クロスアポイントメント制度*、テニュアトラック*システムを適宜導入ないし有効に活用しつつ、教員の利益を損ねることなく流動性を高めるとともに安定した教育研究環境を提供します。

地域・社会との交流

5. 様々な言語での対話やパフォーマンスを実施する機会を増やし、外国人と市民との交流を深め、その中で学生の対話やディベートの能力向上を図り、学際性、国際性、独創性を高めます。
6. 公開講座・講演会、シンポジウム、施設公開、展示会などを実施して、学生、研究者と市民、企業との交流を図ります。

重点戦略4－2

グローバルで多様な学生を積極的に受け入れる基盤として、日本人学生と留学生との対話ができるスペースや交流の場を充実させます。

学生交流・福利厚生施設の整備

1. 日本人学生と留学生との交流の場を充実させるため、日本人学生と留学生の混住が可能な施設や福利厚生施設を整備・拡充していきます。

町家de春の京大トーク

重点戦略4－3

次世代の教育学習環境の改善、組織化等による研究力向上を図るために、情報環境を整備し、それを基盤として多様な活動を俯瞰できる本学独自の仕組みを構築します。

IRを活用した大学運営

1. 大学の活動から生じる多様なデータをIR*(Institutional Research)の手法を用いて活用を図り、エビデンスに基づく教育研究現場の創意工夫を活かす企画・運営を行い、京都大学の持続的発展を支え、独創的な学際学術領域を創成するための組織改革などを推進します。

総合的な学生支援

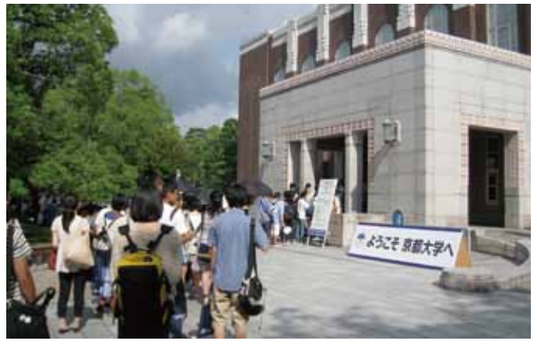
2. 様々な背景をもつ学生が、不安なく本学で教育研究に専念できるよう、カウンセリング、キャリアサポートや障害学生支援において、学生のニーズに対応した総合的な学生支援の充実を図ります。また、教育面での学生支援等については、EM*(Enrollment Management)の活用や、留学生が利用しやすい英語による情報提供などにより、支援効果を高めます。

ORIGINAL AND OPTIMISTIC

失敗や批判を恐れず、それを糧にして異なる考えを取り入れて
目標達成に導くような能力を涵養できる環境および制度を整え、
分野を超えた多様な人材の協働による新たな学術領域の創成など、
未踏科学領域の開拓を目指し、それを支援します。

O はOriginal and Optimistic。これまでの常識を塗り替えるような発想は、実は多くの人の考えや体験を吸収した上に生まれます。そのためにはまず、自分が素晴らしいと感動した人の行為や言葉をよく理解し、仲間とそれを共有し話し合いながら、思考を深めていく過程が必要です。自分の考えに行き詰まったり、仲間から批判されて悲観しそうになったりしたとき、それを明るく乗り越えられるような精神力が必要です。失敗や批判に対してくよくよせず、それを糧にして自分とは異なる考えを取り入れて成功に導くような能力を涵養しなければなりません。その機会を京都大学になるべくたくさん作るように環境を整えようと思っています。

高校生を対象としたグローバルサイエンスキャンパス事業



オープンキャンパス

重点戦略5－1

総合研究大学としてのポテンシャルを質の高い教育に反映させ、あらゆる学生や教員が安心して学習や教育研究に専念できる環境を作ります。

教育と研究の協奏

1. 教育を研究に埋没させたり、両者が背反的な関係になったりすることのないよう、教育と研究の協奏関係を具現化します。そのために、研究に加えて、教育や教育システム運営への教員の貢献を適切に評価する仕組みを構築します。

重点戦略5－2

総合大学に相応しいアドミッションのあり方を再考し、高校生の主体的な進路選択の支援および高校教育から大学教育へのスムーズな接続を図るため、高大接続および連携に関する事業を推進します。

高大接続

1. アドミッション・ポリシー*に見合った優秀な志願者を獲得するため、高大接続と基礎学力を重視する特色入試を含む、入試制度の改革を継続的に行います。

高大連携

2. 高等学校教育から大学教育へのスムーズな接続を図るため、各地域の教育委員会との連携協定を基に、高大連携事業、京都大学サマースクール、京都大学サイエンスフェスティバル（各都道府県から選出されたチームによる研究発表大会）を展開します。また、グローバルサイエンスキャンパス事業等により、幅広い知識と高い志を持った高校生に対して、優れた教育研究資源を積極的に活用した教育プログラムを提供し、知的に卓越した能力を育成します。

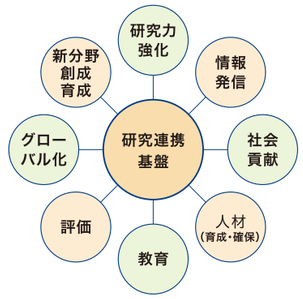
欧州洛友会（欧州同窓会）

重点戦略5－3

京都大学を特徴づける創造的学術領域における研究を推進します。

未踏科学領域の開拓

1. 異分野融合による新分野創成等、新たな未踏科学領域を開拓するため、「京都大学研究連携基盤」の整備等を進め、研究所・センター群の強み・特色を伸ばすとともに、学部・研究科も含む本学の全ての研究者の知を集結させ、新たな学術分野の育成を推進する取り組みを実施します。



「京都大学研究連携基盤」の整備

重点戦略5－4

外的な制約にとらわれない
自由な発想を担保するために「基金戦略」を推進し、
社会や大学支援者と大学とのつながりを強化します。

自主財源確保とそれに基づく支援の充実

1. 自主財源の確保に努め、学生（留学生含む）支援のための本学独自の奨学金等を充実させるほか、新たな研究分野や萌芽的研究領域（未踏科学領域）に挑戦する若手研究者等への支援を強化します。

同窓会への支援等

2. 大学支援者層の拡大を図るために、同窓会への支援、卒業生との連携を強化するとともに、楽友会館など同窓生が利用できる施設の整備を図ります。

WOMEN AND WISH

男女共同参画推進アクション・プランに基づき環境・支援体制整備に加え、休業から復帰後の子育て期に柔軟な働き方を選べる制度を構築します。

W はWomen and Wish。これまで政府は男女共同参画社会の実現を目指し、数々の対策を奨励してきました。京都大学も学生に占める女性の比率は2割を超え、事務職員・技術職員では6割近くになりましたが、教員はまだ1割近くに留まっています。この比率は徐々に上昇すると思いますが、まずは女性が働きやすく、勉学に打ち込める環境作りが必要です。出産・育児休暇が男女とも取りやすく、それが仕事や勉学を継続する妨げにならないような仕組みや、女性に優しい施設・システムづくりを考えていきます。男女共同参画を支える環境・支援体制整備に加え、休業から復帰後の子育て期に柔軟な働き方を選べる制度を構築するため、男女共同参画推進アクション・プランを作成し、その事業推進に努めます。

男女共同参画推進センター 保育園入園待機乳児保育室

女子高生・車座フォーラム

ロレアル―ユネスコ女性科学賞を受賞

京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）

重点戦略6－1

女性リーダー育成および家庭生活との両立支援を推進します。

女性リーダーの育成

1. 女性リーダーを育成するため、ジェンダー・バランスに配慮した教職員採用人事を推進するとともに、女性の活躍を顕在化させ、メンター制度を充実させるなどキャリアアップのための研修・啓発を推進します。

家庭生活との両立支援

2. 家庭生活との両立を支援するため、待機乳児保育・病児保育・お迎え保育等の充実や研究実験補助者雇用支援の拡充を図り、男女の別のない育児・介護休業制度の周知を徹底し働きやすい職場および研究環境を整備します。これにより、職域における男女の差をなくすように努めます。

重点戦略6－2

男女がともに高い希望をもちうる環境づくりを推進します。

次世代の育成支援

1. 次世代にとって魅力ある京都大学を構築するため、オープンキャンパス、女子高校生向けのフォーラム等をはじめとした高大連携や地域連携事業、関連のホームページの充実や冊子の発行などを通じた京大像やロールモデル*に関する情報提供の推進、女子学生を対象にした大学院生・若手研究者との懇談会の実施などに加え、次世代女性研究者育成に向けたキャリアパス構築を目指します。

教職員・学生への広報・啓発活動の推進等

2. 男女の安定的な共同参画を実行するため、将来のキャリアパスについて希望を募り、海外の事例を参照しつつ、男女が快適に共同で仕事を進めるために必要な意識改革や環境整備を実施していきます。

次世代認定マーク（愛称：くるみん）
「子育てサポート企業」として厚生労働大臣から認定
（2009年認定、2014年更新）

用語集

アカデミズム …… 学問研究や芸術活動について伝統的秩序や権威を尊重し、研究や創作活動の純粋性、正統性を保持しようとする精神的傾向・行動様式

アドミッション・ポリシー …… 入学者受入方針。入学志願者や社会に対し、大学・学部などが教育理念や特色などを踏まえ、教育活動の特徴や求める学生像、入学者の選抜基準などの方針をまとめたもの

アントレプレナーシップ …… 起業家精神。新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む姿勢

科目ナンバリング …… 授業科目に系統的な番号を適切に付し分類することにより、学修の段階や順序等を明確化し、教育課程の体系性を明示する仕組み

キャンパスマスタープラン …… 中長期的視野に立ったキャンパス環境全体の基本的な計画

京都大学ジャパンゲートウェイ構想 …… 本学の強みを生かした数多くの世界トップレベルの研究者ネットワークを活用して、海外の大学と連携して互いに質の高いカリキュラムを提供し、国際認知された学位プログラムを推進することで、共に教育力や研究力、国際競争力を更に強化していく構想（文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業）

クロスアポイントメント制度 …… 研究者等が、大学や公的研究機関、民間企業等との間でそれぞれ雇用契約関係を結び、一人が異なる複数の業務を各機関の責任の下で行うことを可能にする仕組み

サステイナブルキャンパス …… 持続可能な社会の実現のためのモデルともなりうる環境配慮型大学

ジョイント・ディグリー …… 複数の大学が、共同で教育課程を編成・実施し、構成大学連名による一つの学位を授与することができる仕組み。複数大学の連携による多様で特色ある教育研究の提供を可能にする。わが国では、平成21年3 月1 日施行の大学設置基準等の改正により創設（関係法令：大学設置基準第43 条等）

情報リテラシー …… 情報や知識の活用能力

ダブル・ディグリー …… 複数の国内外の大学が、単位互換制度などを含む相互協定に基づき予め準備した一連の学習プログラムを一定の期間内に学生が履修した場合、両大学が同時にそれぞれの学位を授与するもの

テニュアトラック …… 組織の活動の活性化を図るための措置として、若手研究者に自立した研究者としての経験を一定期間積ませ、その間の業績等について厳格な審査を行い、教員・研究者としての資質・能力が高いと認めた場合に、任期を付さない職に就かせる仕組み

ロールモデル …… 行動の模範となる存在、手本

eポートフォリオシステム …… ICTを活用して教育記録の蓄積や管理を行うことができるシステム

EM …… Enrollment Management。入学前から、在学中、卒業後までを一貫してサポートする、総合的な学生支援策

GPA制度 …… Grade Point Average 制度。学生の成績評価については、各設置基準において、客観性および厳格性を確保するため、学生に対して成績評価の基準を予め明示するとともに、当該基準に則して適切に評価を実施することが定められている。GPA制度は、客観的な成績評価を行う方法で、一般に授業科目ごとに5段階（例えばA、B、C、DおよびF）で成績評価を行い、それぞれ4から0のグレード・ポイントを付し、この単位当たりの平均を算出し、その一定水準を卒業などの要件とする制度

IR …… Institutional Research。高等教育機関内の調査研究を実施する機能または部門。機関情報を一元的に収集、分析することにより、機関が計画立案、政策形成、意思決定を円滑に行うことを可能とするもの。また、必要に応じて内外に対し機関情報の提供を行うもの

MOOCs …… Massive Open Online Courses。インターネット上で誰もが無料で受講できる大規模な開かれた講義

OCW …… Open Course Ware。大学等で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動

URA …… University Research Administrator。大学等における研究マネジメント人材。教員・研究者と連携して研究活動の企画、研究資源の獲得や研究成果の活用等に努め、研究者の研究活動の促進や研究体制の強化等を支える業務に、研究者と事務職員の中間的な立場で従事する人材

WPI …… World Premier International Research Center Initiative。平成19年度に文部科学省が開始した事業「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」。高いレベルの研究者を中核とした世界トップレベルの研究拠点の形成を目指す構想に対し、政府が集中的な支援を行って、システム改革の導入等の自主的な取り組みを促し、世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と高い研究水準を誇る「目に見える拠点」の形成を目指すもの

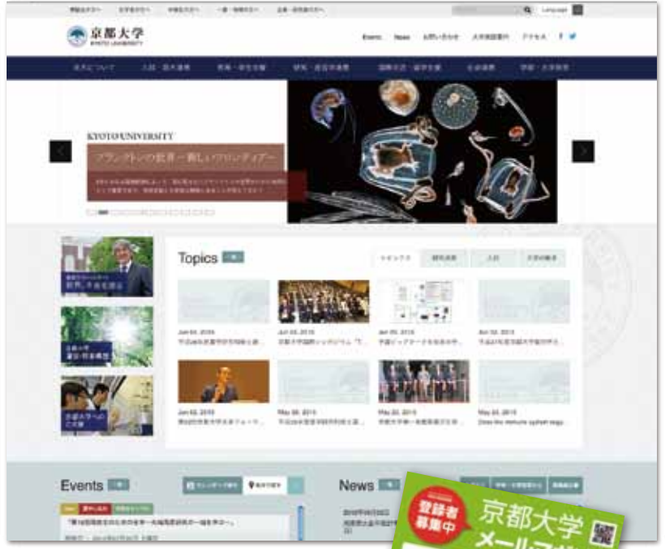
京都大学の「今」を知るには

京都大学では、大学のブランドイメージや大学で日々行われているユニークな活動、
それを生み出す人などをさまざまな方法でお伝えしています。

大学ブランドスペシャルサイト
第１弾「総長、本音を語る」
http://www.kyoto-u.ac.jp/voice/

大学ブランドスペシャルサイト第２弾「探検！京都大学」
http://www.kyoto-u.ac.jp/explore/

京都大学公式ホームページ　http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/



京都大学公式Facebook
https://www.facebook.com/Kyoto.Univ

京都大学公式Twitter
https://twitter.com/univkyoto

京都大学メールマガジン
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/mm/